

# 法律と社会

科目責任者 上 杉 奈 々  
学年・学期 1 学年・3 学期

## I. 前 文

医療を担う者として法とどう向き合うか。昨今、このことはいろんな局面において非常に大きな課題となっている。本講義では、日常の学生生活・社会生活の中で法と接点を持つ身近な社会的事象を解説しながら、その延長、もしくは、特殊なあり方としての社会の中の医療と法の接点・課題について考える時間とし、患者やその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師として活躍できるよう、その専門職としての社会責務を理解・自覚し、キャリアの基盤形成の機会としてもらいたい。

また、医療の担い手として必要とされる基本的な法の考え方を身につけると同時に、いろんな立場・視点から考えることにも試み、視野を広げてもらいたい。そのため、ゲストスピーカーを迎えた講義の際には、レポート課題により様々な視点から主体的に考えることでゲストの経験を追体験するとともに、後日の課題振り返りでは、他の受講生の考えや価値観に触れながら新たな気づきも得てもらいたい。

## II. 担当教員

学内講師 上 杉 奈 々 (教育支援センター 医事法制研究室)  
教 授 三 谷 絹 子 (女性医師支援センター・センター長)

## III. 一般学習目標

1. 社会生活・学生生活を送る上での社会のルール、道徳、豊かな人間性を身につける。
2. 法の観点から医療者の役割について理解を深める。

## IV. 学修の到達目標

1. 法の概念・考え方を理解する。
2. 社会の仕組みとルールを理解し、社会常識・道徳心を養う。
3. 社会における人間関係の重要性を学び、医師としてのキャリアに活かす準備をする。

## V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	11	6	金	1	オリエンテーション/法とは何か	上 杉 奈 々
2		13	金	1	医師と法・社会	上 杉 奈 々
3		20	金	1	家族と法・社会	上 杉 奈 々
4		24	火	5	薬害とは何か	上 杉 奈 々
5	6					
6		27	金	1	ワーク・ライフ・バランスと法律・制度	三 谷 絹 子
7	12	4	金	1	診療契約からみた医療	上 杉 奈 々

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
8	12	8	火	4	医療事故と法・患者安全	上 杉 奈 々
9				5		
10		11	金	1	医療と情報管理	上 杉 奈 々
11	1	8	金	1	患者-医師関係 I	上 杉 奈 々
12		15	金	1	患者-医師関係 II	上 杉 奈 々
13		18	月	4	社会における医科学の役割と法・倫理	上 杉 奈 々
14		18	月	5	まとめ：医療を取り巻く社会と法	上 杉 奈 々

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

テーマに関連して課すレポート（3回程度）と期末試験を総合して評価する。

#### VII. 教科書・参考書・AV資料

教科書は初回講義時に説明する。

毎回レジュメ・資料を配布する。参考文献等は適宜紹介する。

#### VIII. 質問への対応方法

詳細は初回の講義の際に説明する。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP      ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ①レポート課題については，それをもとに良い視点・気づきをまとめた「振り返り」の教材を作成し，最終回の講義時に解説し共有する。
- ②試験については，結果を講評・解説する。

XI. 求められる事前学習，事後学習

各回ごとにシラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

各回ごとにシラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）